

令和2年度

上市町教育委員会事務管理執行状況等点検評価報告書

上市町教育委員会

目 次

令和元年度教育委員会活動状況	1
1 委員選任状況	
2 会議開催状況	
(1) 会議開催数	
(2) 付議案件数	
(3) 会議に付された主な案件	
(4) 視察等	
評価総括表	2
不登校児童・生徒相談支援	9
特別支援教育の推進	10
学校施設設備の改修	11
食育と健康管理の推進	12
放課後こども教室の充実	13
図書館の充実	14
史跡上市黒川遺跡群保存整備事業の推進	15
生涯スポーツの推進	16
社会体育施設の設置と利用促進	17
上市町総合スポーツクラブの充実	18

1 委員等選任状況

令和3年3月1日現在

職	氏名	年齢	性別	元教諭	任期	通算在任年数	役職任期及び通算在任年数	常勤・非常勤の別	保護者
教育長	藤縄 太郎	70	男	○	H30.4.1~ R3.3.31 (H27.4.1~ H30.3.31)	5年11月	教育長: H27.4.1~ (5年11月)	常勤	
教育長職務代理者	堀田 基文	50	男		R2.10.1~ R6.3.31 (H28.10.1~ R2.9.30) (H24.10.1~ H28.9.30)	8年5月	委員長: H26.10.1~H27.3.31 (6月) 委員長職務代理者: H25.10.1~H26.9.30 (1年) 教育長職務代理者: H27.4.1~H27.9.30 (6月) R2.10.1~(5月)	非常勤	
委員	穴戸美喜子	77	女	○	H29.10.1~ R3.9.30 (H25.10.1~ H29.9.30)	7年5月	委員長職務代理者: H26.10.1~H27.3.31 (6月) 教育長職務代理者: H27.10.1~H28.9.30 (1年)	非常勤	
委員	高島 善与	66	男	○	R1.10.1~ R5.9.30 (H29.10.1~ R1.9.30)	3年5月		非常勤	
委員	碓井三恵子	46	女		R2.10.1~ R6.3.31	5月		非常勤	○

2 会議開催状況

(1) 会議開催数

定例会	12回
臨時会	1回

(2) 付議案件数

議案	26
報告事項	15
請願	0
その他	18
計	59

(3) 会議に付された主な案件

- ・ 令和3年度使用小・中学校教科用図書採択の件
- ・ 令和3年度上市町教育目標及び学校教育基本方針決定の件
- ・ 上市町立学校医、学校歯科医及び薬剤師任命の件
- ・ 公民館運営審議会委員委嘱の件
- ・ 上市町スポーツ推進員委嘱の件
- ・ 社会教育委員委嘱の件
- ・ 当面の教育課題について

このほか、町議会に提出される予定の議案に対する意見について付された。

(4) 視察等

学校訪問	0
先進地視察	0
県・地方教委研修	1
計	1

学校訪問 : 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
 先進地視察 : 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
 県・地方教委研修 : 県内各教育委員会(富山県市町村教育委員会連合会)

3 評価総括表（令和2年度事業）

重 点 目 標	担 当 班
主な事業	
不登校児童・生徒相談支援	学校教育班
特別支援教育の推進	学校教育班
学校施設設備の改修	学校教育班
食育と健康管理の推進	学校教育班
放課後子ども教室の充実	生涯学習班
図書館の充実	生涯学習班
史跡上市黒川遺跡群保存整備事業の推進	生涯学習班
生涯スポーツの推進	生涯スポーツ班
社会体育施設の設置と利用促進	生涯スポーツ班
上市町総合スポーツクラブの充実	生涯スポーツ班

成果・効果

[学校教育]

「心身ともにたくましく心豊かに生き抜く児童・生徒を育てる。」「創造性に満ち、主体的に学び続ける意欲・態度・能力を持った児童・生徒を育てる。」を指導方針に掲げ、保護者と地域、学校が連携して子育てを行う教育を目指している。

小中各校のグラウンド整備を含めた今後の大規模修繕等の計画については、今年度策定した教育施設の長寿命化計画を踏まえ、また、小学校のあり方についての議論や国庫補助等の動向も見据えて検討していく。

各学校においては、児童・生徒一人ひとりの個性を尊重し、基礎基本を定着させる教育の充実を教育行政の取り組みの基本として進めている。

国が進める「GIGAスクール構想」のもと、児童生徒1人一台のタブレット型PCの配備、これに伴う授業支援システムや学習ソフトの導入、さらには校務支援システムの導入と、今年度でICTに対応した学習環境の一層の充実が図られた。

教科化となった小学校の外国語については、3、4年生を含め、全授業に教員のサポートとして外国語指導助手を配置している。また、小学校全教員を対象に各学校で発音や授業運営を学ぶ指導研修を実施した。

不登校・いじめへの対応については、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの活用も含め、早期対応と支援に努めている。不登校については、教室外登校の児童生徒も多くいることから、今後も、小中の連携構築を図るとともに、一人ひとりへのカウンセリングや家庭への支援も含め、自己肯定感を培う、粘り強い継続した取り組みが必要である。いじめについては、各学校での積極的な認知を呼びかけてきたことから、件数が増加しているが、いじめの捉え方など教職員の認識に変化が出始め、早期の発見・対応につながってきている。

また、特別な支援を要する児童の学校生活を支援するため、全小中学校にスタディ・メイトを配置しており、その効果は大きい。学校の派遣要望に対応するため、引き続き人材及び財源の確保に努める必要がある。さらに、障がいや早期に発見することにより、適切な療育・教育機会の提供が行えるよう、町教育センターに発達障害支援アドバイザーを配置している。発達障害支援アドバイザーを中心に、学校や保育所などの関係機関が連携し、支援を進めてきたことにより、保護者の方々や関係者の通級指導教室も含めた特別支援教育への理解が深まり、通級指導教室の希望が増加してきている。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、臨時休業を余儀なくされるなど、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化した。このことにより、特に、子どもたちにとっては外出ができないこと、また親の在宅時間の増加などによる家庭環境の変化などから、心のケアも含めた支援を必要とする児童生徒が増えている。

コロナ禍の中、交通安全や防犯への対応の他、地域や関係機関と連携して例年実施している通学路の安全点検についても、一斉の現地確認ができないなどの影響がでた。また、中学校の修学旅行の中止や、全小学校での合同で実施している「ふるさと学習」などの課外活動、運動会や学習発表会などの学校行事も大幅に見直しすることとなった。

新型コロナウイルス感染症の影響はまだしばらくは続くものと予想されるが、感染の状況を注視し、引き続き感染症対策を進め、地域の協力を得ながら「地域とともにある学校」という観点を第一義に捉えた魅力あふれる学校づくりを引き続き進めていく。

教員の働き方改革については、各校独自の工夫により事務負担の軽減を行うなど、自己管理を中心に、少しずつ教職員の意識が高まってきている一方、新型コロナウイルス感染症に伴う消毒作業など、負担感も増加し、行事が大幅に見直されたことにより結果的に時間外勤務が減少し、働き方に好影響を与えていると考えられる。また、来年度から稼働する校務支援システムによる事務負担の軽減に期待を寄せている。

[生涯学習]

「誰もがいつでもどこでも、生涯を通じて」学び続けることができる生涯学習の推進に取り組んでいる。

各公民館においては、公民館職員自らが企画する公民講座の開催や、地域の諸活動の拠点として、地域住民の方に利用されることを目指している。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年度当初から活動自粛や活動中止を余儀なくされた。公民館の利用者は高齢者が多いことから、現在、感染症対策を徹底し、地域での感染状況を考慮しながら活動しているところである。また、教育委員会においても話題のつきないふるさと学習をテーマに「ふるさと町民学園」を開設している。しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、例年の半分程度の16講座の実施となった。密を避けるため同じ講座を3日に分けての開催や、1日に3講座の実施するなど、例年と同程度の内容を盛り込むことにより、延べ1,095名の方々の受講があった。

近年、公民館においては放課後子ども教室や土曜学習事業など、子どもの居場所づくりに係る事業も手掛けており、人口減少社会の中、地域の中核施設として、子育て支援や安心・安全の地域づくり、住民のネットワークづくりの場としての役割が期待されているところである。

図書館においては、新型コロナウイルス感染症対策として図書除菌機を貸出カウンター付近に設置し、利用者が自由に使用できるようにした。

事業としては、上市町出身のアニメーション映画監督である細田守氏のアニメー賞受賞を記念したコーナーの設置や医療・健康コーナーの常設、万葉学の第一人者 中西進氏からの万葉集に関する寄贈書籍の特設コーナーに加え、今年度、探検家の高橋大輔氏の著書「劔岳一線の記」に関連した、劔岳に関する本を集めた特設コーナーを新たに設置するなど、各種企画を実施した。

絵本室においては大型絵本など蔵書の充実に努めてきたことから、静かな環境の中、未就学児の子どもたちが親と一緒に絵本に親しめる環境が整い、町内保育所に通所する園児を招待してのおはなし会など利用促進に向けた取組みも行っている。令和元年度から、町民からの要望も踏まえ、入室・貸出制限を撤廃し、誰もが利用できるよう運用を改善し、絵本の貸出しも開始した。

図書館と同様に絵本室においても、新型コロナウイルス感染症対策として図書除菌機を導入し、返却された絵本の消毒作業を開始し、安心して利用できる施設となるよう努めた。

「史跡 上市黒川遺跡群」の保存整備に関しては、平成24年度に策定した「整備活用基本計画」にある整備・活用の方向性に沿って、平成26年度に測量・基本設計と段階的に事業を進め、平成28年度より本格的に保存整備に着手したところである。

今年度は昨年度までに実施してきた遺構保護盛土について、流出防止の固化舗装を行った。

[生涯スポーツ]

生涯スポーツにおける各種イベントの参加者数は、多くの住民がスポーツを実践し、健康づくりや生きが

いにつながるよう、そして活力のあるまちづくりを推進していくうえでも、重要なひとつの指標である。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、主要事業の多くを中止とした。次年度以降は、感染状況等をみながら、対策を講じたうえで事業を再開し、引き続き、それぞれのライフステージに応じてスポーツを「する、観る、支える、育てる」活動に積極的に参画していただき、明るく豊かな生活が送れるよう取り組みを進めていく。

体育施設の利用については、各種スポーツ団体を中心に利用者の固定化が見受けられ、ここ数年は、全体としては横ばいで推移している。今後とも適切な維持管理に努め、安全かつ快適に利用できる環境を維持するとともに、誰もが気軽にスポーツに親しめるよう総合型地域スポーツクラブと連携して講座や教室等を開設するなど、引き続き、利用促進に努めていく。

総合型地域スポーツクラブの会員数は、町内各小学校への継続した会員募集やイベント等のPRに努めており、ここ数年は現状維持が続いている。しかしながら今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった教室も多い。人口減少に加え、本町においても少子高齢化が進む状況にあることから、次年度以降は感染状況等をみながら、対策を講じたうえで中高年層の健康意識を高めるイベントや介護予防教室を企画するなど、これまで以上に魅力ある事業展開に留意しつつ、活発に活動するクラブ運営を目指していきたいと考える。

プレゴールデンエイジ期の児童を対象に実施している健康運動能力向上支援事業においては、体力測定結果の各種目において記録の向上が見られるなど一定の成果が見られ、幼児期からの運動習慣の定着という観点から、継続して実施していく。なお、次年度から小学校において、ダンス、陸上、器械運動の指導に重点を置き、専門の指導員を派遣するなどし、少しでも学校の体育活動をサポートできるよう、内容を見直す予定としている。

問題点

[学校教育]

いじめや不登校、その他の学校内でのトラブルについて、その要因には幼少期からの障がいへの理解の不足や家庭環境なども影響を与えていることから、今後は福祉部局と連携した子ども家庭総合支援の取り組みが必要とされてきている。

来年度に福祉部局に子ども家庭総合新拠点が設置されることから、幼保・小中も含め、乳幼児期からの包括的な一貫した相談や支援の態勢を、関係機関が共通理解のもと、進めていく必要がある。

また、国の「GIGAスクール構想」のもと子どもたちの学習環境は大きく変化しつつあるが、まずは対面授業で如何にICTを活用し、個々にあった学びを進めていくかが重要と考えており、学校現場への支援として、ICT支援員の配置や授業内容の充実を図っていく必要がある。

新型コロナウイルス感染症により、子どもたちや学校を取り巻く環境はまだ厳しい状況が続くことが予想されることから、心のケアや奨学資金や減免などの経済的な支援の充実についての検討が必要となっている。

学校行事の見直しなど、教職員の働き方改革への視点も十分に踏まえながら、子どもたちが安心して落ち着いた学校生活を送れるように、学校教育でのこれまでのあたり前をしっかりと見直すなどの取り組みを更に進めていく必要がある。

[生涯学習]

「公民館講座」や「ふるさと町民学園」は長年の受講者を中心に一定の参加者を確保してきているが、一部講座のマンネリ化や受講者の固定化が見受けられること、また、人口減少社会に向かう中、地方創生としての地域コミュニティの活性化につなげるために、幅広い世代が参加できるよう、運営形態の見直しなども含め、継続して改善に努める必要がある。

図書館については、電子図書などのインターネット環境の飛躍的な発展など、図書館を取り巻く環境の変化への対応もあり、学校図書室や町内保育所等との連携を図るなど、子どもたちや町民の読書環境の充実に向け一層の改善に努めるとともに、利用者が手に取りたくなる話題の図書を随時選び・蔵書とする他、年間を通した企画展などソフト面の更なる充実も必要である。

また、駐車スペースが少なく、車で利用者にとって利便性が低いことも問題である。

絵本室については、これまでどおり絵本に親しめる環境づくりを継続するとともに、図書館システム更新に伴い、システムを導入し、利用者の利便性の向上に努めたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、現在のところ利用者及び貸出数の増加には結びついていない。

「史跡 上市黒川遺跡群」の保存整備に関しては、国（文化庁）の補助金が要望額を大きく下回る状況が続いているため工事の発注がこま切れとなっており、当初の計画に遅れが生じてきている。早期の保存整備工事完了と更なる活用事業の展開を目指し、補助金の獲得に向けた国・県との協議を進める必要がある。

[生涯スポーツ]

1年延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の年にあたり、6月には聖火リレーが本町においても実施されるほか、パラリンピックの採火式も8月に予定している。当町においても、スポーツイベントの際に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会をPRするなど、可能な取り組みを進めるとともに、スポーツを「する・観る・支える・育てる」といった町民のスポーツに対する意識高揚の契機とする必要がある。

「町駅伝競走大会」や「剣健康マラソン大会」など、各種スポーツイベントにおいては、マンネリ化を指摘する声もあり、事業内容の見直しが不可欠である。事業継続の必要性を検討するとともに、全く新しいイベントの企画も考えていく必要がある。

総合型スポーツクラブに関しては、現状では自主運営するまでには至らず、依然として行政による支援が必要ではあるが、何よりも「存在感のあるクラブとして認識されること」に重点を置き、今後も特色ある講座や教室の開催等を通じて、幅広い世代のスポーツ活動の推進に寄与することが必要である。

外部学識経験者の意見 (富山大学人間発達学部教授 笹田 茂樹)

評価 (富山大学人間発達学部教授 笹田 茂樹)

外部学識経験者のプロフィール

富山大学人間発達学部教授

笹田 茂樹

専門分野

教育行政学

経歴

- 1982年 慶応義塾大学文学部史学科 卒業
2001年 神戸大学大学院総合人間科学研究科（博士前期課程）人間発達科学専攻 修了（修士（学術））
2007年 神戸大学大学院総合人間科学研究科（博士後期課程）人間形成科学専攻 修了（博士（学術））
- 1982年 株式会社日本交通公社入社 神戸三宮支店勤務（1984年まで）
1986年 兵庫県高等学校社会科教員として採用される。（2009年まで）
2009年 富山大学人間発達科学部 准教授（2016年～ 同大学 教授）

主な著書

- 2006年『現代教養論』（共著）（学文社）、
2009年『リーディングス日本の教育と社会 教師という仕事』（共著）（日本図書センター）
2010年『地域教育の構想』（共著）（同時代社）など

社会活動

- 富山県民生涯学習カレッジ富山地区センター運営会議委員長
富山市教育委員会事務管理執行状況点検評価委員
富山市教育振興基本計画懇話会委員（2019年）
魚津市教育振興基本計画策定委員会会長（2014～2015年）

令和2年度 主要事務

担当班	学校教育班	事務の内容	不登校児童・生徒相談支援
目標とする指標	1・2学期の不登校、教室外登校児童・生徒の人数		

1 目標数値

年度別 き な い 目 標 数 値 等 の 方 向 （ 数 値 化 で	基準年度	基準数値	令和2年度目標	令和2年度末実績	
	平成28年度	不登校、教室外登校児童・生徒の人数(1・2学期) [不登校]			不登校、教室外登校児童・生徒の人数(1・2学期)
	目標年度	小学校 0名 中学校 19名 [教室外登校]	0名 10名	1名 10名	
	令和2年度	小学校 2名 中学校 6名	0名 5名	0名 4名	

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
適応指導教室の運営	不登校の児童・生徒が再登校を目指せるよう、上市町適応指導教室に指導員2名を常時配置し、児童・生徒の対応にあたる。
スクールカウンセラーの配置	県教育委員会が全小中学校にスクールカウンセラーを各1名配置し、児童・生徒のカウンセリングにあたる。
スクールソーシャルワーカーの	社会福祉士であるスクールソーシャルワーカーを上市中学校、教育センターに配置し、主に不登校の傾向にある児童・生徒やその家庭への働きかけなどの対応にあたる。
子どもと親の相談員の配置	学校生活や家庭生活での子どもや親の不安や困り感に対応するため、今年度より県事業を活用し、相談員を1校に配置し、家庭支援にあたる。

3 令和2年度末実績の点検及び評価

<p>不登校児童・生徒の数は、スクールカウンセラーの配置や町教育センターに配置した発達障害支援アドバイザーを中心に相談・支援体制の充実を図ってきたことから、減少傾向にあった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響などのため、家庭環境が悪化している家庭が多く見られる。このため不安を抱え不登校傾向になる児童・生徒が多いように思われる。</p> <p>学校になかなか登校することができない児童・生徒に対しては、子どもと保護者に寄り添ったケアに取り組むことが大切である。学校でも引き続き担任の家庭訪問を含めスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家と連携を取りつつ、相談・支援していく必要はあるが、児童虐待の状況も考えられるため、福祉部局と連携した家庭支援体制の構築を進めることが求められる。</p> <p>評価: 今後も、関係者が一体となって不登校の児童・生徒や保護者をケアしていく必要があるが、不登校の要因の一つであるいじめ等へのより早期からの対応に加え、家庭支援にも取り組んでいくことが必要であることから、来年度福祉部局に子ども家庭総合支援拠点が設置されることとなった。また、コロナ禍が続く中、ますます子どもたちへの心のケアが重要となっている。</p>
--

令和2年度 主要事務

担当班	学校教育班	事務の内容	特別支援教育の推進
目標とする指標	特別支援教育支援員の配置		

1 目標数値

年度別 き な い 目 標 数 値 等 (数 値 化 で 方 向)	基準年度	基準数値	令和2年度目標	令和2年度末実績
	平成28年度	特別支援教育支援員の配置人数 小学校 19名	25名	18名
	目標年度			
	令和2年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
特別支援教育支援員の配置	有償ボランティアである特別支援教育支援員(スタディ・メイト)を小学校全校に加え、令和元年度からは通年で中学校に1名、計18名配置し、主に普通学級に在籍する発達障害等の児童・生徒のケアにあたった。
発達障害支援アドバイザーの配置	国の教育支援体制整備事業補助金(切れ目ない支援体制整備充実事業)を活用し、町教育センターに発達障害支援アドバイザーを配置している。(配置4年目) アドバイザーは、教育相談や保育所、小中学校の連携を軸に活動し、スタディ・メイトの配置、統括及び研修を実施した。 発達障害のほか、不登校などへの相談や家庭支援にも携わっている。

3 令和2年度末実績の点検及び評価

<p>広汎性発達障害やADHD(注意欠陥多動性障害)・LD(学習障害)などの特性を抱え、支援を必要とする児童・生徒がいるが、本人が抱える困難さも各人各様であり一人の教師だけで対応するには限界があることから、特別支援教育支援員(スタディ・メイト)を、出来る限り学校の要望と状況に応じ、計18名を配置したところである。また、定期的に独自研修を実施するなど、引き続きスタディメイトの資質の向上にも努めている。教員に対しても個々の児童・生徒に応じた指導法や理解を深めるための場を設け、研修に取り組むことを企画したが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から外部講師を招いての研修会は中止となった。</p> <p>教育センターの発達障害支援アドバイザーを中心に、乳幼児期からの早期支援を継続して取り組むことが必要であると考えられることから、国補助は終了となるが、継続雇用とする予定である。</p> <p>通級指導教室を含め、特別支援への理解が深まってきている。このことから、特に通級指導を希望する児童・生徒、保護者が増えてきており、新たに小中学校での情緒障害の通級指導教室の開設を申請した。</p> <p>評価:スタディメイトによる支援は子どもたちにとっても学校にとっても必要であることから、今後も各校の状況、要望に応じ人員を適正に配置し、きめ細かな対応が継続的にできるよう人員の確保に努めるとともに、特別支援学級や通級指導教室も含め、更なる連携に努め、支援を進めていく必要がある。</p>

令和2年度 主要事務

担当班	学校教育班	事務の内容	学校施設設備の改修
目標とする指標	グラウンドの再整備率		

1 目標数値

年度別 ない 目標 数値 もの は等 （数 値化 でき ）	基準年度	基準数値		令和2年度目標		令和2年度末実績		
	平成28年 度	グラウンド再整備率	小	0%	小	50%	小	17%
			中	0%	中	100%	中	0%
			小中	0%	小中	57%	小中	14%
目標年度								
	令和2年 度							

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
グラウンド表面排水の再整備実施	グラウンドの排水機能が低下しており、授業や行事等に支障をきたすことが増えてきている。グラウンドは、表面排水の効果が7割から8割、暗渠排水の効果が2割から3割といわれていることから、土盛りにより勾配をつけ、排水機能の改善を図っていく。

3 令和2年度末実績の点検及び評価

<p>平成29年度に全小中学校のグラウンド排水状況を確認のうえ総合的に判断し、宮川小学校のグラウンド整備工事を実施した。事業費約9,000千円</p> <p>平成30年度は当初予算で上市中央小学校グラウンド整備の実実施設計を行う予定であったが、緊急に同小学校の講堂床改修工事を優先して実施する必要が生じた。このためグラウンド整備の実実施設計は取り止め、床改修工事の実実施設計、翌令和元年度に改修工事を実施した。</p> <p>設備の老朽化等に伴う建物修繕等を優先させるため、令和2年度までの目標としている小中学校のグラウンド整備実施は難しい状況である。令和2年度はコロナ感染予防対策等の工事、建物修繕を優先し、グラウンド整備は未実施である。</p> <p>また、宮川小学校の状況を観察し、同じ工法で他の小学校を整備していく予定であったが、グラウンド面積が広いことや諸経費が高額となることから、国の交付金の下限額である10,000千円を大きく上回る見込みであることが判明した。今後の計画については、グラウンド整備だけではなく校舎等を含めて総合的な検討が必要である。令和2年度末策定の「個別施設計画」を元に、グラウンド整備を含む施設整備の時期を検討していく。</p> <p>評価:グラウンド整備の財源としては国の交付金を活用することが必要不可欠な状況となった。しかしながら現在、国の交付金は統廃合、耐震化、長寿命化、空調設備等を優先していることからグラウンド整備の採択は難しいと考えられる。町としてはグラウンド整備の優先順位は上市中学校からと考えているが、国の動向を注視し、全学校で国の交付金を活用することを視野に入れ、令和2年度末策定の「個別施設計画」を基に実施時期を検討していきたい。</p>
--

令和2年度 主要事務

担当班	学校教育班	事務の内容	食育と健康管理の推進
目標とする指標	地元食材を利用した給食回数		

1 目標数値

年度別 き な い 目 標 数 値 等 の 方 向 （ 数 値 化 で	基準年度	基準数値	令和2年度目標	令和2年度末実績
	平成28年度	100回 / 191回	110回 / 191回	76回 / 194回
	目標年度			
	令和2年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
地場産食材を利用した給食の実施	・JAアルプス、生産者、町産業課の協力のもと、『学校給食かみいちの日』および4～2月まで学校給食に地場産野菜を取り入れることで、活用を拡大することができた。また、児童生徒には、地場産野菜の指導資料を配布し、生産者の方々への感謝、食への興味を深めることに努めた。
その他事業	体験教室 ・さつまいもの苗の植え付けから収穫まで行った。
	通年 ・給食だよりを家庭に配布したり、教室、廊下には食育だより等を掲示した。
家庭における食育の推進	・家庭は食育に関して重要な役割を果たすことを理解してもらうため、栄養教諭が中心となって、朝ごはんをしっかりと食べることや、肥満予防、食物アレルギー等の指導を行った。

3 令和2年度末実績の点検及び評価

町や県内でとれた食材を積極的に取り入れることにより、児童生徒が町や県内の産業や文化に関心を持ち、農業に従事しているの方々への感謝の気持ちを育むことを目的とし、地場産食材を活用した食に関する指導を行った。また、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策としてとられた臨時休業措置のため、児童生徒が毎日自宅にすることが増え、食事の偏りと合わせ、間食の機会も増え塩分や糖分・脂肪の過剰摂取や運動不足等が懸念された。

学校休業が長期化することで、子どもたちの栄養格差の広がりが心配されるため、子どもたちの家庭に対して、栄養バランスのポイントや家庭で簡単に作ることでできるような給食献立をアレンジした献立や火も包丁も使わず子どもたちだけでできる簡単料理を食育だよりで紹介した。また、休日及び休業中の食生活を把握するためにアンケート調査を実施した。

評価:今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の中、食に関する指導の在り方について検討し、掲示資料や食育だより等を活用し食育の充実を図った。休日及び休業中の食生活に関するアンケート調査結果では、「同じようなものになってないか」「栄養バランスがとれているか」が心配という保護者の意見が多くあり、引き続き栄養教諭等と連携しながら保護者が知りたい情報を伝えるなどし、食の指導を進めていきたい。

令和2年度 主要事務

担当班	生涯学習班	事務の内容	放課後子ども教室の充実
目標とする指標	放課後子ども教室の開設校数		

1 目標数値

年度別目標数値等(数値化で きないものは方向)	基準年度	基準数値		令和2年度目標		令和2年度末実績	
	平成28年度	放課後学習室 開設校数	1校	開設校数	7校	開設校数	4校
	目標年度						
	令和2年度						

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
放課後子ども教室推進事業	<p>体力づくりにおいては、上市町総合スポーツクラブさんさんに委託して小学校3校において実施している。</p> <p>また、放課後の子どもたちの居場所づくりとして、公民館を中心に放課後子ども教室や土曜学習の推進に努めている。</p> <p>一方、児童の自主学習の定着化による学習支援を図ることを目的に実施している小学校での放課後学習室は3校で実施している。</p> <p>上市中学校では、利用する生徒増を目指し、PTA総会などの機会に保護者にも理解してもらうよう、放課後学習室の意義を教員OBから話してもらうなど、生徒自ら学習に取り組む場の活性化を図っている。</p>

3 令和2年度末実績の点検及び評価

上市中学校の放課後学習室では、教員OB及び大学生による学習支援により、学習環境の充実を図ってきた。また、小学校の放課後学習室では陽南小学校、宮川小学校、上市中央小学校の3校で実施している。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で当初の計画した通りの実施が困難であり、予定よりもかなり少ない実施回数になった教室もあった。今後は少しでも学習習慣の定着を図れるよう、教室の指導者と相談しながら、何度も利用したくなるような環境や内容について整備していきたい。

令和2年度 主要事務

担当班	生涯学習班	事務の内容	図書館の充実
目標とする指標	町民一人当たりの貸出数		

1 目標数値

年度別目標数値等 (数値化できないものは方向)	基準年度	基準数値	令和2年度目標	令和2年度末実績
	平成28年度	貸出数 92,400点	貸出数 95,000点	貸出数 66,000点
	目標年度	町民一人当たり4.3点	町民一人当たり4.3点	町民一人当たり3.3点 (見込)
	令和2年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
各種企画の実施	読書会、小学校への出前おはなし会、読後イメージ絵画展、学級招待、ボランティアの協力を得て絵本のよみきかせなど、各種企画を実施し、町民各世代が本に親しみ、図書館を訪れる機会を創出していく。 また、町出身の細田守アニメーション監督の常設展示コーナーや、町内イベントの内容に関連した書籍等を展示し、来館者の興味・関心をひく企画の実施に努めた。
館内環境の充実	図書館システムの導入により蔵書の効率的な利用と他市町村立図書館、県立図書館等との相互貸借が可能となっている。また、利用者にカード登録を行ってもらうことで貸出の効率化を図っている。 また、館内入口に間仕切りを整備し、館内空調温度を快適に保つことに努めるとともに、新年度からは照明のLED化に取り組み、利用者が館内で快適に過ごせるような環境の充実に努めていきたい。
絵本室の活用	絵本を通じて子どもたちの豊かな心と言葉を育むことを目的とし、さらに親子のふれあいの場として、おはなし会、おりがみ教室、人形劇などを開催し、利用者増を目指している。 本年度からは入室制限の撤廃、特殊絵本を除く全ての絵本の貸出しを行っており、絵本室の活性化及び貸出数の増につなげていきたい。
ブックスタートの継続	絵本を通して赤ちゃんと保護者が心ふれあうひとときを持っていただくことを願って、4か月児健診時に絵本をプレゼントする事業は継続している。

3 令和2年度末実績の点検及び評価

<p>上市図書館では、目標達成のため「劔岳」・「細田守」・「医療と健康」・「万葉集」に関する、各常設コーナーを設けるなど、魅力ある図書館となるよう努めてきた。しかし近年、利用者の減少傾向にある中、コロナ過の影響により臨時休館をせざるを得ない日もあり、図書館利用者・貸出冊数共に大きく減少している。 さらに、感染予防策として、各小学校での図書の紹介、読み聞かせ事業を中止している。 こうした状況の中、保育園・高齢者福祉施設などの要望を受け出前おはなし会は継続して行っている。 今後、地域の魅力ある図書館・絵本室として、小中学校・保育園等へのPRに努める。</p>
--

令和2年度 主要事務

担当班	生涯学習班	事務の内容	史跡上市黒川遺跡群保存整備事業の推進
目標とする指標	整備活用事業などの推進		

1 目標数値

年度別 き な い 目 標 数 値 等 の 方 向 は 数 値 化 で	基準年度	基準数値	令和2年度目標	令和2年度末実績
	平成28年度	平成18年1月26日 史跡指定	令和2年度目標 保存整備事業の推進 活用事業の推進	黒川上山墓跡 ・保存整備工事
	目標年度	平成18年3月10日 上市町が管理団体に		
	令和2年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
史跡上市黒川遺跡群保存整備事業	<p>上市黒川遺跡群は、中世の文化・宗教・社会を知る上で、上市町のみならず全国的にも貴重な遺跡として平成18年に国指定史跡となった。</p> <p>これまで保存管理計画の策定(平成19・20年度)、史跡指定地の公有化(平成21～23年度)、整備活用基本計画の策定(平成23・24年度)、整備基本設計(平成25・26年度)と段階的に事業を進め、平成28年度からは国庫補助金・県補助金の交付を受けて保存整備事業に着手している。</p> <p>令和元年度 ・黒川上山墓跡保存整備事業 保存整備工事(保護盛土表面固化舗装 等)</p>

3 令和2年度末実績の点検及び評価

<p>・黒川上山墓跡保存整備事業 今年度は昨年度までに施工してきた遺構保護盛土の一部について、流出防止のための固化舗装を行った。なお、国(文化庁)の補助金が要望額を大きく下回る状況が続いているため工事の発注がこま切れとなっており、当初の計画に遅れが生じてきている。早期の保存整備工事完了と更なる活用事業の展開を目指し、補助金の獲得に向けた国・県との協議を進める必要がある。</p> <p>・活用事業の実施(黒川フェスティバル) 例年開催している黒川フェスティバルについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施を見送った。今後は情勢を勘案しながら、整備の進捗に合わせた多様な事業を創出するなど、更なる周知・活用に努めていく。</p>

令和2年度 主要事務

担当班	生涯スポーツ班	事務の内容	生涯スポーツの推進
目標とする指標	各イベントにおける参加者数		

1 目標数値

年度別 き な い 目 標 数 値 の 等 方 向 数 値 化 で	基準年度	基準数値	令和2年度目標	令和2年度末実績
	平成28年度	合計人数 2,306名	合計人数 2,950名	合計人数 2,493名
		①町民体育祭 1,482名	①町民体育祭 1,600名	①町民体育祭 478名(見込み)
	目標年度	②軟式野球大会 4少年団 80名	②軟式野球大会 4少年団 75名	②軟式野球大会 2少年団 40名
令和3年度	③剣健康マラソン大会 395名	③剣健康マラソン大会 600名	③剣健康マラソン大会 中止	
		④駅伝競走大会 329名	④駅伝競走大会 650名	④駅伝競走大会 中止
		⑤町民スキー大会 20名	⑤町民スキー大会 30名	⑤町民スキー大会 10名

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
①町民体育祭	<p>①町内において17競技を開催(子どもから大人までを対象)。各競技は競技団体が主管で開催し、交流試合から郡民体育大会の予選として開催している競技など様々である。</p> <p>②町内のスポーツ少年団(小学生対象)による軟式野球大会。トーナメント戦で実施。平成19年度までは、郡予選として開催していたが、20年度以降、町単独の大会として実施している。</p> <p>③丸山総合公園周辺において1.1km、2.5kmと5kmの3コースを設定。お楽しみ抽選会で景品を提供し、楽しく・健康と体力の増進を目的に走る。幼児から高齢者まで幅広い年代から参加者がある。</p> <p>④丸山総合公園周辺で実施。 少年駅伝(5区間=6.3km) 町駅伝(5区間=15.4km) 町駅伝は5部門(中学男子、中学女子、一般男子、一般女子、一般男女混合の部) 少年駅伝チームの構成は、少年団や学校単位が、町駅伝は、中学校部活動、会社単位が、それぞれ中心となっている。</p> <p>⑤小学生の部6部門(低学年・中学年・高学年 各男女別) 一般の部2部門(中学生以上 各男女別) 大回転競技</p>
②軟式野球大会	
③剣健康マラソン大会	
④駅伝競走大会	
⑤町民スキー大会	

3 令和2年度末実績の点検及び評価

①町民体育祭	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、総合開会式は中止となった。各競技大会は、空手競技、パークゴルフ競技、バスケットボール競技が開催された。
②軟式野球大会	町内の軟式野球スポーツ少年団は少子化とともに減少し、今年度の登録は僅か2団体のみとなった。今年度は、1試合のみのため、大会では無く交流試合とした。武道や球技系、同じ球技でもサッカーと野球などの間で、子どもたちの取り合いになるなど、団員の勧誘が激しくなり、団員の確保に苦慮している。
③剣健康マラソン大会	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。
④駅伝競走大会	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。
⑤町民スキー大会	近年のスキー人口の減少やスノーボードの普及により、参加者は年々減少している。特にここ数年は、多くの参加が期待できない状況が続いている。雪不足の心配もあり、大会の開催自体が危惧されるところであるが、次年度以降も機会を捉え関係者に参加を促していく。

令和2年度 主要事務

担当班	生涯スポーツ班	事務の内容	社会体育施設の設置と利用促進
目標とする指標	施設利用者数		

1 目標数値

年度別 目標数値等 (数値化で ないもの は方向)	基準年度	基準数値	令和2年度目標	令和2年度末実績
	平成28年度	施設利用者 63,000人	施設利用者 65,000人	施設利用者 44,000人 (見込)
	目標年度			
	令和2年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
体育施設管理事業	<p>町民の健康増進とスポーツ振興を図るため、社会体育施設の利用促進を目的とし、下記の業務を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各スポーツ利用団体を対象とした利用調整会議を開催することにより、利用者ニーズに応じた柔軟な施設開放の運用に努める。 ・上市町ホームページ上で施設利用状況の情報を提供する。 ・上市町総合スポーツクラブ“さんさん”主催教室の定期利用を優先させ、多目的・多世代がスポーツを実践できる機会を確保する。 ・常時、各施設の安全点検を徹底し、誰もが安心して利用できる施設環境を維持するとともに、備品等の充実により、利便性の向上を図る。

3 令和2年度末実績の点検及び評価

<p>今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用調整会議を調整が必要な団体のみ招集し調整を行うこととした。併せて、各団体代表に施設利用時の留意事項をまとめた資料を送付し、適切な施設の利用方法について周知した。</p> <p>社会体育施設の老朽化が著しいため、引き続きこまめな点検・修繕が必要である。 来年度は、B&G体育館の大規模改修を予定しており、施設の環境整備を行う。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大し、4、5月に施設を休館したことや、利用者の一部制限・活動自粛があり利用者数が大幅に減少した。 次年度以降、引き続き感染症対策を徹底し、利用者が安全に利用できる環境整備に努めたい。</p> <p>上市町B&G海洋センター体育館にて、職員向けに避難・消火訓練、AED講習会を行い、緊急時の対応について再確認した。</p>

令和2年度 主要事務

担当班	生涯スポーツ班	事務の内容	上市町総合スポーツクラブの充実
目標とする指標	上市町総合スポーツクラブ会員数		

1 目標数値

年度別 目標数値等 (数値化で ないものは 方向)	基準年度	基準数値	令和3年度目標	令和2年度末実績
	平成28年度	会員数 550人	会員数 600人	会員数 406人 (見込)
	目標年度			
	令和2年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
クラブマネージャー設置及び運営費への支援	クラブの運営に必要不可欠なクラブマネージャーとアシスタントクラブマネージャーについては、町が雇用しクラブへ派遣する。 また、財政的に厳しい運営を強いられているクラブへの支援を継続して実施する。
町民等へのPR活動の協力	クラブ会報紙、ガイドブックの全戸配布、クラブのホームページを町ホームページへリンクするなど、継続して実施する。 また、かみいちスポーツまつりを剣健康マラソン大会と同日開催するなど、イベントの共同開催による相乗効果により、さらなる周知に努める。

3 令和2年度末実績の点検及び評価

<p>各種スポーツ教室やイベント等の企画・運営は、クラブマネージャーとアシスタントクラブマネージャーが協力して行っており、より魅力のある内容となるよう、知恵を絞っている。会員数は、ここ数年は横ばいの状況であり、さらに事業内容を検討するなど、少なくとも現状を維持できるよう注力していく必要がある。</p> <p>健康意識の高まりにより、特に中高年層が気軽に参加できる介護予防教室の開催、「NPO法人スタジオじゆう」との連携など、会員増に向けて取り組みを進めている。しかし今年度は、4～6月の各種教室を始め、かみいちスポーツまつりや体力診断テストなどがコロナ感染症拡大防止のため中止となった。教室再開後は、対策を取りながら可能な範囲で開催したり、かんじきハイクなど感染リスクの少ないイベントを実施したりし、参加者には好評を得ている。ただ会員数、利用者数は減少している。</p> <p>クラブの存在をより多くの町民に知ってもらうため、会報紙の発行やガイドブックの全戸配布、町報への教室日程の掲載、町HPとクラブHPとのリンクなどのほか、町内小・中学校や関係団体等への事業開催の案内をクラブと連携して行うなど、継続して実施しているところである。今後も引き続き、広報活動の充実に取り組んで行く。</p>
--